第十六講・ベートーベン（伝記）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

［ルードウィヒは作曲がうまくいかず、父に相談した。］

「いいか。あしたから、一歩も外に出るんじゃない。朝からずっとピアノの前にこしかけて、指から血が出るまで、ひきつづけるんだ。」

ヨハンはいった。

父はすぐれた歌手だけれど、作曲のことに関しては①父のいっていることはちがうんじゃないかと、ルードウィヒは思った。

でも、すっかり自信をなくしてしまっていたルードウィヒは、どうにでもなれと思った。それで、つぎの日は、朝からピアノの前にこしかけて、自分の曲だけをひきつづけた。

②ひきつづけているうちに、なんだかだんだんたいくつになってきた。おなじ曲をひくからたいくつというのではなくて、やっぱりこの曲自身が変化がすくなくてつまらないのではないかと、ルードウィヒは思った。

速度記号も発想記号も、わざと無視（むし）してひいてみた。＊和音も、わざとずらしてみた。

「……おもしろいよ。こっちのほうが。」

ルードウィヒは新しい五線紙をもってきて、さっそく、いまひいてみた曲を書きうつした。

何回もそうやってひき変え、書きなおしては、ネーフェ先生のところへもっていく。またしかられ、またなおす。いく日もいく日もそうやったあと、とうとうある日、ネーフェ先生がいった。

「ルードウィヒ、おめでとう。これならりっぱだよ。すてきな曲ができたね。」

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

そのときルードウィヒ＝バン＝ベートーベン、十二さい。その③はじめての曲が、『ドレスラーの行進曲の主題による九つの変奏曲（へんそうきょく）ハ短調』である。

〈畑山（はたやま）　博（ひろし）「ベートーベン」より〉

＊和音＝二つ以上の高さのちがう音が同時にひびいたときの音。

---

(1)　――線①「父のいっていること」とは、どのようなことですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　苦しい思いを曲にするのが一番いいということ。

イ　作曲中はずっとピアノをひいているべきだということ。

ウ　作曲中は父以外の人間と会ってはいけないということ。

エ　作曲中は眠（ねむ）らずに、五線紙に曲を書きうつすべきだということ。

(2)　――線②「ひきつづけているうちに、なんだかだんだんたいくつになってきた」とありますが、なぜルードウィヒはたいくつになってきたのですか。文中の言葉を使って答えなさい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(3)　――線③「はじめての曲」とありますが、ルードウィヒがはじめて作曲した曲についての説明としてふさわしくないものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ネーフェ先生の指導を受けて曲を完成させた。

イ　作曲をするときには、それまでに作曲した曲の速度記号や発想記号を無視したり、和音をずらしたりしてみた。

ウ　ルードウィヒが十二さいのときに完成した。

エ　作曲を始めてからほとんどすぐにできあがった。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この時期、ベートーベンは、もう一つの大きなピンチにみまわれている。なぜだか理由はわからないのだけれど、ピアノや弦楽器の低い音を聞くとき、それが、①まえのようにいい*ハーモニーになって聞こえないのだ。

*和音が、高いほうだけ耳に入って、低いほうがよく聞こえない。これは作曲家にとって、重大なことだった。

はじめ第一交響曲の作曲をしていて、そのことに気がついた。

②ベートーベンの作曲のやり方というのは、頭にうかんだ*主題をつぎつぎに頭のなかで発展させていっきに書くというのとはちがっていた。

散歩のとちゅうや家にいるとき、とつぜん天のどこからかとびこんでくるようにして頭をしめつける*楽想がある。するとそれを、ベートーベンは、とっさに五線紙に書いておく。

そういうものが、前後の関係なしにたくさんあって、それを、あとで構成するのだ。

スケッチした譜面を、すぐにピアノでひいてみることがある。

そうすると、たったいま頭のなかで聞こえていた音と、③じっさいの音がちがうのだ。

「そんなばかな……。」

〈畑山　博「ベートーベン」より〉

*ハーモニー＝音のひびきあい。調和。
*和音＝二つ以上の高さのちがう音が同時にひびいたときの音。
*主題＝中心となる楽想やメロディ。
*楽想＝楽曲の構想。頭のなかにえがく楽曲のイメージ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「まえのようにいいハーモニーになって聞こえない」について、次の問いに答えなさい。

あ　――線①のことにベートーベンが気づいたのは、いつですか。「……をしていたとき。」に続くように、□にあてはまる言葉を文中からぬき出しなさい。

□□□□□□□□をしていたとき。

い　――線①と同様のことが書かれている一文を文中からさがし、初めの五字を答えなさい。

□□□□□

(2)　――線②「ベートーベンの作曲のやり方」とは、どんなやり方ですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　頭にとびこんできた楽想をすぐに五線紙に書きとめておき、あとで集まったものを構成するやり方。

イ　思いついた楽想をとっさに五線紙に書きとめ、思いついた順にならべていくやり方。

ウ　思いついた主題をつぎつぎに頭のなかでひろげていき、集中していっきに書くやり方。

エ　最初に曲の構成を考えておいて、それに合う主題をいっきに考えていくやり方。

□

(3)　――線③「じっさいの音」とは、何の音ですか。文中の言葉を使って答えなさい。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講・確認テスト

次のカタカナを漢字に直したものとして、正しいものを選びなさい。

１　道でばったり友人にアった。
ア　在　イ　合
ウ　会　エ　有

２　夏休みのカダイが終わらない。
ア　過大　イ　課題
ウ　仮題　エ　花台

３　薬がキく。
ア　聞　イ　聴
ウ　効　エ　利

４　まどをアける。
ア　空　イ　開
ウ　明　エ　飽

５　席にツく。
ア　付　イ　突
ウ　着　エ　就

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十六講　ベートーベン（伝記）

一題目

(1) イ
(2) (例)曲自身が、変化がすくなくてつまらないから。
(3) エ

二題目

(1) ㋐第一交響曲の作曲(をしていたとき。)
㋑和音が、高
(2) ア
(3) (例)スケッチした譜面を、ピアノでひいてみた音。

〈確認テストの解答〉

１　ウ　２　イ　３　ウ　４　イ　５　ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。